第一回新春俳句大会盛会に終る

俳句で文芸創作活動の振興

席題高点句

蕗の薹笠から分けて貰いけり　東城索秋
生まれては消ゆる水泡芦の角　坪谷耕雨
浅春や踏めばこぼるる畦の土　坪谷耕雨
白鳥の旅立ち近し芦の角　南場愛子
春の雷一瞬乳牛が瞳を凝らす　今井秀虹

俳句を通して村民の文芸創作活動の振興をはかろうと、第一回新春俳句大会が一月二十日横越村公民館で行われた。
本村には、俳句愛詠家が多く、かってどこの青年団でもお祭りなどで俳句を詠み、神社に奉納していたことがある。
現在では、木津小阿賀吟社が本村唯一の同好会で、同吟社は、年二回ほど大江山俳句同好会との交流、県下各地で開かれる俳句大会、新聞投稿など活発な活動を続けている。
今回の大会も同吟社の協力を得て開かれたもの。
初の俳句大会のため、参加者は二十名で少なかったが、詠れた作品は秀れたものばかりで充実した大会であった。
「こたつ」「青木の実」「風花」の兼題を広報よこごし新年号で公募、一一二句ほどが応募された。
選者には、大江山俳句同好会桑野松雪先生ら三名、小阿賀吟社東城索秋先生ら三名の方からあたってもらい、二十日被講された。
一方、席題は同日午前九時三十分に発表、春雷（初雷）、春浅し、芦の角（芦の芽）、初午、蕗の露についてそれぞれ詠句された。
作品の審査は、出席された人が全員であたった。

俳句大会成績
○兼題の部
一位　坪谷十九一
二位　坪谷耕雨
三位　佐藤志残
○席題の部
一位　今井夫子
二位　東城索秋
三位　坪谷耕雨

公民館ではこの俳句大会を機会に、村の文芸創作活動の振興と文化遺産づくりに広報よこごしを通じて年四回の作品公募を、大会を年一回開催する。また、文芸機関誌を発行する予定である。
多数の作品応募を希望します。

こんにちわ ふるさとさん

いつまでも残してほしい 美しい自然を

みなさん、お元気ですか　私は昨年の四月ふるさとを離れ、埼玉県川越市のある病院に勤めております。
雑沓した都会の生活をしていると静かなふるさとの四季をいつもなつかしく思っております。
あの清く澄んだ阿賀の川に映える五頭連峰、自然に囲まれた静かな横越村を。
春、田植えが終ると、見わたす限り緑のじゅうたんを敷いたような広い水田。日一日と緑が深まる水田から聞えるのどかな蛙の大合唱は忘れられません。
お盆には、青年団が主体となって行う〝懸賞つき盆踊り大会〟があり、貧弱な公会堂の前にやぐらが建てられると、もう大会が始まるのを待ちきれないようにみんな踊りを始めます。
婦人会の人たちの変装もおもしろいが、人気があるのは少年たちです。誰れがいいはじめたのか、いつそうなったのかわかりませんが歌の途中のレコードにはない掛け声が「チャサーッチャサッサット」とかかる。この元気いっぱいの掛け声に誘われて、いつの間にか調子づき踊りの輪の中へ入ってしまう。
稲穂が黄金色になり、重そうに頭をたれる九月上旬になると豊作を祝うお祭りがあり、このお祭りには、天狗がかぐらを倒す場面が見られ、村の人たちはそれを見ようと集まり、村は祭りで湧きたちます。
にぎやかな季節が終り、あたり一面銀世界になると、シベリアから飛んでくる白鳥の姿も見られ、横越村の四季はまさに自然に囲まれた〝ふるさと〟です。
このように美しい自然をいつまでも残してほしいものと思います。

（川越市山口病院勤務）　渡辺千恵子

連青25名が 栃木県　の宮町へ交歓研修

横越村連合青年団は、二月九、十、十一日に栃木県二の宮町を訪れ、地元青年と交歓研修が行われる。
二の宮町青年は、全国各地の青年と交流されており、進んだ青年団活動や学習活動をしている。
昭和四十六年二月、同町青年は、本村を訪れ、交歓研修を行ったこともあり、本村青年とは、深い親友となっている。
本村青年一行二十五名と随行に田中公民館長が九日午後二時二の宮町を訪問、歓迎会や交歓研修会が、翌十日は、交歓会とバレーボールの交歓試合などが計画されている。
宿泊は、各青年の家に民泊で十一日、益子焼で有名な益子町を視察したあと帰宅する予定。

『ふるさとの歌まつり』を公開録画 新津市で

NHK新潟放送局では、三月十四日午後七時から新津市民会館で「ふるさとの歌まつり」の公開録画が行われる。
出演は、新津市近郷の郷土芸能（本村からも出場が要請されている）、青江三奈、森進一、岡崎友紀の人気スター、とおなじみの宮田輝アナウンサー。
当日の録画は、三月二十八日午後八時から全国放送される。
入場希望者は、往復はがきで三月三日までに新潟市弁天町NHK新潟放送局「ふるさとの歌まつり」係あて申し込みください。
往復はがきは一通につき一人限りです。

村の人口

48・12末人口	8,021人
48・12末世帯	1,717世帯
(48・1・1～48・12・31)	
出生	117人
死亡	63人
転入	324人
転出	366人

おとし玉 子どもクイズ発表

新年号広報のおとし玉子どもクイズにたくさんのご応募いただきありがとうございました。
応募総数七一通のうち、正解は四八通で、厳正抽籤の結果、次の二〇名の方におとし玉として貯金箱を送りいたしました。

佐藤　淳子・田中　毅子
笠原　豊・笠原　力
栗原美由貴・熊倉希恵子
坂井　陽子・福田美穂子
小池貴絵子・五十嵐よしみ
斎藤　実・渋谷　智子
斎藤　順子・佐久間直美
坪谷　雅樹・島原　昌子
坂井　八重・加藤　志保
五十嵐りん子・五十嵐　満

〔クイズの正解〕
①ことわることはない
②おまわりさん
③四捨五入
④パパイヤ
⑤フルート
⑥作業服
⑦トマト

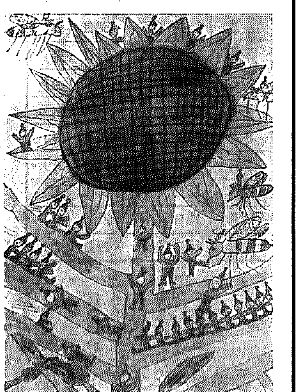
田村孝平、串田徳行君 全国青研に派遣さる

三月十五、十六日、十七日東京の日本青年会館で行われる第19回全国青年問題研究集会に、本村の田村孝平連青団長と串田徳行連青事務局長ら十九名が新潟県代表として派遣されることになった。
この代表派遣の選考にあたって去る一月十一日から三日間、県青少年教育センターに於いて開催された第十九回県青研で、青年団の実践活動がすばらしく、またリーダー性運動とも参加者、講師、助言者から高く評価されたもの。

昭和48年8月からなくなられた方々

故人	年令	地区
宮嶋　イワ	82	小杉中
田辺芳太郎	72	小杉下
佐藤嘉奈子	0	横越中
佐藤　進	7	沢海上
神田力四郎	87	横越中
鈴木　庄治	71	小杉下
桜井曾一郎	78	横越下
坪谷　トイ	63	木津中
石附　長治	69	小杉上
青木　清一	86	二本木中
清野　謙作	87	沢海中
中川　栄作	86	小杉上
谷内田布袋作	81	木津上
長谷部スイノ	79	川根谷内
山村　久作	70	小杉中
中沢　庄作	66	沢海下
坂井　スイ	87	小杉下
長谷部マツ	66	川根谷内
南場ハクイ	76	横越中
小林くに子	24	沢海下
田口　新松	61	沢海上
内山チヨノ	87	木津下
伊藤　ノヲ	76	横越中
小池勝太郎	56	沢海上
木村　ミン	75	沢海中
神田　ケイ	35	横越中

こどもサロン



横越小学校一年生　神田正昭君

《評》
「ひまわりの国のお祭り」というお話をレコードで聞かせて小人たちの生活を想像させ内容豊かな絵を伸び伸びとかかせました。
みつばちに乗って、みつをすいに行こうとする小人たち、花びらにかくれてかくれんぼをしている小人たち、茎のすべりだいで大ぜいの小人たちが仲よくすべっているようすなど、とっても楽しそうにかいてあります。
消すことのできないフェルトペンで線がきをしてから彩色せさました。（横越小　豊岡愛子先生）

小杉小学校六年生　風間晴美さん

《評》
新春にふさわしく「初春の光」を書きました。型のとりにくい字ですが、そこが晴美さん、自分のからだや、心のように実にのびのびした出来ばえだと思います。
ただ「光」の横棒がうまくいかなかった点、本人も残念がっています。一画一画ていねいな気持ちがよく表現されていると思います。
（小杉小　大沢保先生）

作品の投稿を

広報よこごしをみんなの広報として、楽しんで読まれるものに育ててゆきたいと思います。
村民のみなさんが考えていること、文芸作品などをどしどしお寄せください。採用の方には粗品を進呈いたします。

ひろば―「私も一言」 日常生活に関すること、横越村の発展のための建設的な考えを四百字詰原稿用紙一枚程度。

文芸―俳句、短歌、詩、川柳

住所、氏名を明記してください。（匿名希望の方も住所、氏名を）